

私は、本年度から公職選挙法の改正に伴う選挙権年齢の引き下げによって、選挙で投票を行うことが出来るということを知り、早速十八歳になった私は選挙というものがいったいどのようなものなのか、また、誰がどのような政策を考えているのか、というような事を資料やインターネットを見て調べてみました。いままでは、選挙というものに全く興味がなかったため、調べていくにつれて選挙についてたくさん知る事が出来、興味を持つようになりました。

そこで初めて知った事があります。それは各政治家の考える政策についてです。政策は一人一人全員違う事を書いており、ある人は少子高齢化問題について書いてあったり、またある人は保育園の待機児童について書いてあったり、その両方を書いている人もいました。高校生も選挙権を持つということになり、今年度からかどうかわかりませんが、奨学金の事や高校の義務教育等を書いている人がいました。このように皆違う事を考え、同じようなことでもよく読むと微妙に内容が違ったりしていて、色々な世代の人々に受け入れてもらえるような政策を考える人が多い事を知りました。政治家は、よくニュースとかでは悪事を取り上げられたり、言い争いをしたりしていたため、今までは大人なのにみっともないと思っていましたが、様々な人々の様々な意見をより多く通そうと思って精一杯頑張ってくれているのだと思うと、なぜもっと早く政治に興味を持たなかったのだろうと思ひ、今まで偏見の目で見えていた事を恥ずかしく思いました。だから私は、投票を行おうと思ひました。そしてついに、選挙の日がやって来ました。一人だとやり方がわからないので母親と共に行く事にしました。しかし、実際は学校で行った生徒会選挙とほとんど変わらず、とても簡単に行うことが出来ました。そして私の初めての選挙は終わりました。私が今回選挙を行った感想は、予想とは全然違って堅苦しかったりせず、高校生でも気軽に行うことが出来ました。これから選挙権を持つ高校生には是非、めんどくさがらずに自分の考えと合う人に投票して、若者の投票率を少しでも上げることが大事だと思います。そうすることにより、若者向けの政策が増えると思うので、私はこれからも積極的に選挙に参加していきたいと思ひました。